

施設紹介

# 看護婦の目から見たイタリアの心臓リハビリ施設

中沢 フクエ\*, 中村 孝子\*\*

ドイツで開催されたヨーロッパ心臓病学会に参加する谷口院長と大島先生に同行させていただき、約50施設あるイタリアの心臓リハビリテーションセンターのうち、北イタリアのベルーノ心臓リハビリテーションセンターと、モンテスカノリハビリテーションセンターを見学したので概要を紹介する。

## ベルーノ心臓リハビリテーションセンター

抜けるような青空の下、遠く雪を冠ったアルプスに向かって、ミラノから北西へ高速道路を時速140 kmで走ること約1時間、大きな道路から少し入った林の中にセンターは建てられていた。

周囲の木木の緑は鮮やかで、初秋の強い日差し割には吹く風は爽やかで心地よく、日本の残暑とは違っていた。

センターのすぐ前にヘリポートがあり、緊急時に備えられている。敷地は広く散歩コースの林や、芝生に設けられた所々の木陰にテーブルと椅子が置かれている。そこには、談笑する人、散歩している人の姿がある。そして、ロビーやテラスでも大勢が談笑し非常に和やかでゆったりした雰囲気を感じた。

施設は心臓リハビリ専門のセンターで、ベッド数80床、医師5名、看護婦20名、看護婦の殆どは一般の看護教育を受けた後、心臓リハビリ専門教育を受けた看護婦である。

病室：重症室2床と、1人部屋、3人部屋、と



図1 イタリア心臓リハビリテーション施設 50施設

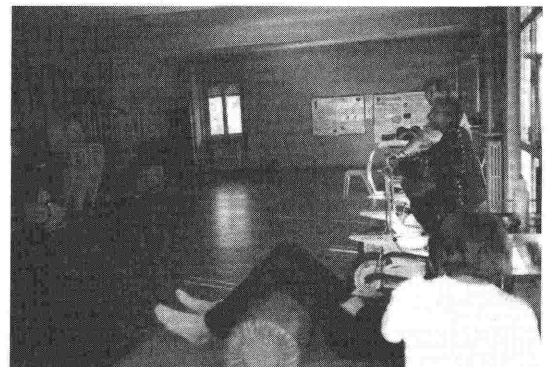


図2 ベルーノ心臓リハビリテーション リハビリ室

\*群馬県立循環器病センター 副看護部長  
\*\* 同 外来婦長

あり、3人部屋にはトイレ・シャワーが設けられ両方ともに広いスペースがある。

リハビリ室：エルゴメーター10台が、壁際と窓際に、向き合って設置され8名が訓練中だった。ベッドも2台あり、それぞれ運動療法士がつき呼吸練習をしていた。広さはあまりないが物がすっきり配置されていて、患者間にスペースがあり広く感じた。

その他の付属室としてエコー室、核医学検査室、トレッドミル室を見学、医療機器は日本と殆ど変わらないものが導入されていた。また、心臓神経症専用のリハビリ室があり、防音壁、音響装置、映像装置などが整備され、身体的なリハビリテーションだけでなく“こころ”のリハビリへの拘わりが重要であることをあらためて感じさせられた。

全体的な印象は、全てにゆとりを持って作られた空間があること、患者さんや働く職員が明るいことに日本との違いを感じた。また、担当している医師から緊急時に対応するために「訓練室と、医師室は出来るだけ近くにしたい方がよい」というアドバイスを頂いた。

### モンテスカノリハビリテーションセンター

ペルーノから東へ、田園風景と、少し遠くの小高い丘にある教会の赤い屋根、白い壁のすばらしいコントラストの中を車で1時間45分、斜面にブドウ畑が多くなってきたところの、細い坂道を登った「こんな所に？」と思われるような、たわわに実ったブドウ畑の中にセンターがあった。

建物は、外壁が、ピンク色で周囲の緑にとけ込んで美しく、一步入ると玄関の窓は、ステンドグ

ラスが高くまではめ込まれ明るく落ちついた雰囲気を感じがよかった。

ベッド数、全体で300床。うち心臓リハビリ80床、看護婦25名（内5名は心臓リハビリ専門看護婦）、午後の見学だったためリハビリの実際を見ることは出来なかったが、リハビリ室にはいろいろなりハビリ用具が整備され、部屋の壁の一面が鏡になっていてより広く感じた。検査機器は最新式が導入されており、病室は広くて段差がなく、ドアから直接ベランダに出られるようになっている。

ラウンジには売店があり、カウンターで自由にコーヒーなどを楽しんでいる、そこから直接テラスに出ることができ、遠くの教会やブドウ畑を眺め、爽やかな風を受けながら日光浴と会話を楽しんでいた。とても病院とは思えない雰囲気である。この施設は心臓移植後の患者が30人いると聞き「さすがヨーロッパ・・・」と、驚くと同時に移植を受けることが必要な患者はいると思うが、提供者がそんなにいるのだろうか？日本人としては計り知れないものを感じる。

以上が概要であるが、日本でも近年病院の中に心臓リハビリセンターが設置されるようになり、専門医師や技師も誕生している。

イタリアの2施設をみて、両者とも、周囲の環境が静寂で、緑が豊富な郊外に位置していた。谷口院長がかねてから提唱している、当院の敷地内にある、“緩やかな坂、綺麗な水が流れる川、美しい緑”を利用したリハビリパークのビジョンが、今回見学をしてよく理解できた。リハビリ施設としては最高の条件が揃っている。現在、心臓リハビリパークと施設の建設に向けて動き出している中で、私たちも院長のビジョンを理解し、患者のQOLの改善に向けて、この見学を活かして協力していきたい。



図3 モンテスカノテラスの光景